

## 「河川砂防技術研究開発」(平成23年度採択)

### 事後評価結果

研究テーマ名	研究代表者	評価
光ファイバセンサによる広域モニタリングシステムの開発と氾濫予測技術への活用（研究期間：H23年～H25年）	東京大学 村山 英晶	C
<b>&lt;研究概要&gt;</b>  既設の光ファイバ通信網を光ファイバセンサの導波路として利用し、防災用の低コストで広域な観測網を構築できるセンサネットワーク、および防災に利用可能な様々な観測データを統合し一元管理するデータベースのシステムを提案し、設計・開発した。開発されたシステムで得られた観測データは、河川・下水道の縦断的流況及び浸水状況の把握に活用できることを示した。		
<b>&lt;事後評価コメント&gt;</b>  既設の光ファイバ通信網を利用した低コストの広域モニタリングシステムの開発にあたり、光ファイバセンサを活用した要素技術については一定の成果があったと判断できる。 しかしながら、観測データの精度についてはデータを蓄積することにより更なる評価が必要である。 また、水位については、リアルタイムに定性的な傾向をつかんでいるものの、予測の定量化にはさらなる研究が必要であり、氾濫予測技術の精度向上への活用までは至っていないと考えられる。 本研究成果が実用化されるためには、今後もデータの蓄積及び研究が継続されることを期待する。		

#### ※評価基準

- A: 研究目的は達成され、十分な研究成果があった
- B: 研究目的は概ね達成され、研究成果があった
- C: 一定の研究成果があった
- D: 研究成果があったとは言い難い